第８講　中国思想

1　諸子百家

①諸子百家の登場→春秋末期〜戦国時代

A　封建制度の確立

中国最初の王朝とされる**殷**を紀元前 11 世紀に滅ぼした**周**の王は，**天**から**天命**を受けた**天子**として華北を支配した。周王は，一族・功臣や土着の首長に地位と封土〔領地〕を与えて諸侯とし，代々仕えさせた。また，諸侯に従う卿・大夫・士も地位と領地を与えられた。

B　**諸子百家**の登場

前８世紀には周が力を失い，分裂と抗争が続く**春秋時代**となり，前５世紀末以降の**戦国時代**には，各地の諸侯も王を名乗るようになり，戦国の七雄と呼ばれる秦・趙・魏・韓・楚・斉・燕が，強国として並び立っていた。そして，富国強兵をめざす各国に，さまざまな思想や政策を説く人々が現れた。

②諸子百家の種類

A　**儒家→孔子・孟子・荀子**

後述する

B　**道家→老子・荘子**

後述する

C　**墨家→墨子**

兼愛・交利・非攻・節用

※儒家の「仁」を別愛として批判。言行録に『墨子』がある。

D　**法家→韓非子**・李斯・商鞅ら

法治主義

※韓非子は儒家の荀子の弟子。

E　名家→公孫竜ら

名称とそれが示す事柄を明らかにする論理学

F　兵家→孫子・呉子ら

戦略・戦術論

G　縦横家→蘇秦・張儀ら

外交論

H　陰陽家→鄒衍ら

陰陽五行説

I　農家→許行ら

農本主義

２　儒家

①孔子（前 551 ？～前 479 年）

A　人物

魯という小国に生まれ，50 歳で司法大臣となるが，のち政争に敗れ流浪の旅に出る。14年にわたり諸国で政治論を説いて回るが採用されず魯に戻り，**子弟の教育に尽くし** 72 歳で死んだ。弟子による言行録に『**論語**』がある。

B　**仁**

孔子は，**春秋時代末期**の秩序崩壊危機に際し，家族に対する親愛の情こそが社会の基本であり，それを広めていくことが人の生きる道で，最高の徳であると主張した。

※具体的には，親や兄弟に尽くす家族愛（＝**孝悌**）と，他者へのまごころや思いやり（＝**忠恕**）が理想的な愛であり，ひたすら他者のことを考え，見返りを求めてはならないとした。

C　**克己復礼**→「己に克ちて礼に復るを仁と為す」

己の勝手な欲望を克服し，上下関係に基づく行動規範である**礼**に従うことを説き，それが結果的に国を治める道につながると述べた（＝**修己治人**）。

D　**徳治主義**

孔子は，人間が従うべき正しい道理としての「**道**」を説くとともに，為政者が最高の徳である仁を備えた**君子**となり，その徳をもって統治すべきであると提唱した。

E　孔子のことば―『論語』より―

「吾十有五にして学に志し，三十にして立ち，四十にして惑わず，五十にして天命を知る，六十にして耳順う，七十にして心の欲するところに従いて矩をこえず」

「学びて思わざれば則ち罔く，思いて学ばざれば則ち殆し」

「己の欲せざるところは人に施すことなかれ」

「朝に道を聞かば夕に死すとも可なり」

「巧言令色，鮮なし仁」

※「未だ生を知らず，いずくんぞ死を知らん」「怪力乱神を語らず」→合理主義的態度

②孟子（前 372 頃～前 289 年頃）

A　人物

鄒という小国に生まれ, 幼少時に父を失う。母は「孟母三遷の教え」や「孟母断機の教え」などの逸話で有名。学問を修め諸国を遊説するが，覇権を争う戦国時代に徳治主義を説いても，理想主義的すぎて受け容れられなかった。晩年は弟子の教育と著述に専念した。弟子による言行録に『**孟子**』がある。

B　**性善説**

孟子は，孔子の思想を受け継ぎ発展させた。人間の本来の心は善という説をとるが，心の養い方を間違えれば善は失われるとし，孔子と同様に**教育を重視**した。

C　**四徳**と**四端**

孟子は，人には生まれながらにして４つの徳（＝四徳）の芽生えとなる心（＝四端）が備わっているとした。

１　「**仁**」の芽生え→**惻隠の心**（他人の不幸を憐れむ）

２　「**義**」の芽生え→**羞悪の心**（不善を恥じ悪を憎む）

３　「**礼**」の芽生え→**辞譲の心**（謙遜し他者を立てる）

４　「**智**」の芽生え→**是非の心**（善と悪とを見分ける）

D　**浩然の気〔不動心〕**

教育や習慣により四端を養い育てていくと，人は四徳を実現でき，身体に根源的な気力がみなぎる。

※孟子は，そのような人を**大丈夫**と呼んで理想とした。

E　**五倫**

孟子は，人間関係の基本として，父子の**親**，君臣の**義**，夫婦の**別**，長幼の**序**，朋友の**信**という５つを掲げた。

※これを守ることで, 戦乱で乱れた社会秩序を回復することができると説いた。

F　**王道政治**

政治に関しては，孔子と同じく**徳治主義**の立場をとったが，もはや世の中は春秋時代から戦国時代に突入しており，孔子が理想化した周王朝の封建制度への復帰はありえないと考えた。

※王道政治とは，当時行われていた武力による支配（＝**覇道政治**）ではなく，人民の幸福を真に考え，仁と義をもって国を治めるというもの。しかし，この考えが実行される環境にはなかった。

G　**易姓革命**

孟子は, 人の本性は天から授かった天命であり, 天の意志は人民の声になって表れると考えた。すなわち，人民の支持を受けた者こそが政治を行うべきであり，王（天子）が徳に反する覇道政治を行えば支持を失い，天命が別の者に移るとした。

※「易姓」は天子の姓が易わることで,「革命」は天命が革ること。

※革命には, 平和的に位を譲る禅譲もあれば, 武力による放伐もあるとした。

③荀子（前 298 頃～前 235 年頃）

A　人物

戦国時代末期に趙に生まれ，学問を積んだ。50 歳の時，斉に遊学し大いに認められた。讒言にあい斉を去った後，楚に招かれて地方長官となり，辞職後は弟子の教育と著述に専念した。主著に『荀子』がある。

B　**性悪説**

荀子は，基本的には孔子の教えを継承しつつも，孟子とは逆に，人間の本来の心は欲望に支配されているとした。

C　**礼治主義**

争乱の原因となる人々の欲望や利己心を矯正するため，社会規範として礼を遵守するべきであると主張した。

※**弟子の韓非子**や李斯は荀子の思想をさらに強化・発展させ，**法家**として法律と刑罰で秩序を維持する**法治主義**を生んだ。

④儒学の成立（前２世紀後半）

A　**秦**による弾圧（前３世紀後半）

紀元前 221 年，秦が初の統一王朝となり，戦国時代は終わった。**始皇帝**は，焚書･坑儒という厳しい思想統制で**儒家を弾圧, 法家を登用**し**法治主義**をとった。

B　**前漢**による官学化（前２世紀後半）

当初は法家・道家の教えが力をもったが，武帝の時代には，儒家の**董仲舒**の提案により**儒家の思想〔儒教〕が官学とされ**，経典として**五経**（『**詩経**』『**書経**』『**礼記**』『**春秋**』『**易経**』）が整えられた。そして，これらを研究する学問は**儒学**と呼ばれるようになった。

※董仲舒は, 孟子の説いた四徳（仁･義･礼･智）に**「信」**を加え**五常**とした。

※儒学は，後漢の頃に経典の字句解釈を重んじる**訓詁学**として発展し，詳しい注釈書がつくられた。

⑤朱子学の成立（12世紀後半）

A　**四書**の重視

宋代には，難解な五経に代わり『**論語**』『**孟子**』『**大学**』『**中庸**（ちゅうよう）』が重視されるようになった。両者を合わせ，**四書五経**という。

B　**朱熹**（しゅき）〔**朱子**（しゅし）〕（1130～1200年）

南宋の官僚であった朱熹は，字句解釈にこだわる従来の訓詁学に対し，当時**宋学**と呼ばれていた儒学を大成して**朱子学**を提唱した。

C　**理気二元論**

朱熹は，人間を含む万物は**「気」**という物質で構成されると同時に，その存在根拠や道徳的規範は**「理」**という宇宙の原理として天から賦与されているとした。そして，人の本性は「理」（＝**性即理**（せいそくり））という善であるが，肉体すなわち「気」に乱されており，悪はそこに由来すると考えた。

※「理」＝人の本性として心に備わる**本然の性**（ほんぜん），「気」＝感情や欲求として肉体に備わる気質の性とされる。朱子は，気質の性を本然の性に変化させることをめざした。

D　**居敬窮理**（きょけいきゅうり）

朱熹は，人間は学問に努力すれば聖人君子になれるとし，感情や欲求を抑えて敬（つつしみ）の心をもち（＝居敬），事物の理を探求（＝窮理）することを主張した。

※居敬窮理によって知を深めていくことを，**格物致知**（かくぶつちち）という。

⑥陽明学の成立（16世紀前半）

A　**王陽明**〔王守仁（しゅじん）〕（1472～1528年）

明の官僚であった王陽明は，外面的な知識や修養に頼って人間を矯正（きょうせい）しようとする朱子学を批判し，**陽明学**を提唱した。

B　**致良知**（ちりょうち）

王陽明は，無学な子どもや庶民でも，その心は生まれながらに「理」という善を備えていると考えた（＝**心即理**（しんそくり））。そして，誰もがもつ善悪を判断する心である**良知**（りょうち）を発揮していけば，善が実現すると説いた。

C　**知行合一**（ちこうごういつ）

真の知は実践を伴う，と朱子学を机上の学問として批判したので，陽明学は学者だけでなく庶民にも広く支持された。

３　道家

①老子（前５世紀？）

A　人物

孔子よりやや遅れて出たといわれるが，生没年が不明で，実在を疑う説もある。主著『**老子**』。

B　**無為自然**（むいしぜん）

老子は，道徳や文化を否定し，人智の計らいを超えた**道**（タオ）（無（む）とも）に従う自然に任せた生き方こそ理想だとし，**儒家を批判**した。

※無為自然とは，何もしないのではなく，無欲に生きることをいう。

C　**小国寡民**（しょうこくかみん）

民衆からの過重な徴税を批判し，君臣の区別なく，全ての人々が農業に従事する小さな国で，自給自足の共同体政治が行われることを理想とした。

※老子は，私的な欲望を増大させることは最大の罪悪であり，戦争もそこから生じると考えた。そして，争いのない社会のためには，文明から遠ざかり，あるがままの素朴な生活に満足することが大切だと説いた。

D　老子のことば―『老子』より―

乱れた世に必要なのは，儒家の勧めるような学問ではなく，柔和（にゅうわ）でへりくだった態度（＝**柔弱謙下**（じゅうじゃくけんげ））で人との争いを避け，自然に身を任せて生きることだと説いた。

「大道（だいどう）**廃**（すた）**れて仁義あり」**

「学を断てば憂（うれ）いなし」

「上善（じょうぜん）**は水の如**（ごと）**し」**

②荘子（前４世紀後半）

A　人物

孟子よりやや遅れて出たとされる。老子の説いた「道（タオ）」の概念をさらに発展させた。主著『**荘子**』。

※**道家**（どうか）の**老荘思想**（ろうそう）（のち**道教**（どうきょう）へ発展）のいう「道」は，万物の根源で，天地に先立って生じ，感覚では捉えられず，名づけようもなく，言葉では表現できない，とされた。儒家のいう天下に秩序をもたらす道徳的な「道（みち）」とは異なる。

B　**万物斉同**（ばんぶつせいどう）

荘子は，あらゆる事物は同一性をもつ，ということを「道」の本質とし，一切の差別や対立を超えた境地（きょうち）に真の安らぎを求めた。

C　**心斎坐忘**（しんさいざぼう）

無為自然の世界に遊び（＝**逍遙遊**（しょうようゆう）），何物にもとらわれない生き方をする人を**真人**（しんじん）〔至人（しじん）〕として理想化した。そして，そこに至るには，自然に身を任せて自らの心身すら忘れ去ることが重要だと説いた。

D　老子との違い

老子の思想が論理的で反儒学的な性格をもつのに対し，荘子の思想は比喩（ひゆ）的・神秘的な性格が強かった。

※『荘子』にみられる**「胡蝶（こちょう）の夢」「無用の用」**の話は，人間の判断する価値による区別など相対的なものにすぎない，ということを説いている。

第8講　倫理確認テスト

1　諸子百家が現れた時期は，次のうちどれか？

①　殷　　②　周　　③　春秋・戦国時代　　④　三国時代

2　諸子百家のうち，「兼愛」「交利」「非攻」「節用」を説いた集団は？

①　儒家　　②　道家　　③　墨家　　④　法家

3　以下の語句のうち，孔子と関係ないものを一つ選べ。

①　孝悌忠恕　　②　克己復礼　　③　修己治人　　④　無為自然

4　孔子のいう愛である「仁」についての説明としてふさわしいものを一つ選べ。

①　互いの幸福を願う愛

②　親愛の情をさまざまな人間関係に広げていく愛

③　無償・無差別の与える愛

④　一切衆生に向けられる慈しみの愛

5　孟子のいう四端のうち，「義」という徳の芽生えとなるものは？

①　惻隠の心　　②　羞悪の心　　③　辞譲の心　　④　是非の心

6　四徳を実現すると身体にみなぎるとされる，根源的な気力とは？

①　浩然の気〔不動心〕　　②　孝悌忠恕　　③　柔弱謙下　　④　逍遙遊

7　孟子は，父子の親，君臣の義，夫婦の別，長幼の序，朋友の信，を合わせて何といったか？

①　梵我一如　　②　五経　　③　五常　　④　五倫

8　荀子の主義を指すものとして適切なものは？

①　禁欲主義　　②　徳治主義　　③　礼治主義　　④　法治主義

9　老荘思想は，のち何に発展したか？

①　仏教　　②　儒教　　③　道教　　④　陰陽道

10　知行合一を説き，朱子学を批判した思想家とは？

①　墨子　　②　韓非子　　③　荘子　　④　王陽明

解答

1	③	2	③	3	④	4	②	5	②
6	①	7	④	8	③	9	③	10	④